

科目名	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
数学 I II	1	3+1	改訂版 高等学校 数学 I (数研出版) 高等学校 数学 II (数研出版)	改訂 フォーカスゴールド数学 I + A (啓林館) 改訂版 クリアー 数学 I + A (数研出版) 改訂 フォーカスゴールド数学 II + B (啓林館) 改訂版 クリアー 数学 II + B (数研出版)

1 科目の目標と評価の観点

目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	数と式、2次関数、図形と計量、データの分析及びいろいろな式における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	数と式、2次関数、図形と計量、データの分析及びいろいろな式において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、2次関数、図形と計量、データの分析及びいろいろな式において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式、2次関数、図形と計量、データの分析及びいろいろな式における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。

2 学習計画と観点別評価規準

学期	学習内容 章・節・項目名	観点別評価規準	〔関〕：関心・意欲・態度	〔考〕：数学的な見方や考え方	〔技〕：数学的な技能	〔知〕：知識・理解	
1 学期	<b>第1章 数と式 第1節 式の計算</b>						
	1. 整式の加法と減法	単項式や多項式、整式、同類項、次数について理解している。〔知〕					
		ある文字に着目して整式と同類項をまとめ、整理することができる。〔技〕					
		整式を降べきの順に整理することができる。〔知〕					
	2. 整式の乗法	整式の加法、減法の計算ができる。〔技〕〔知〕					
		指数法則を理解し、計算に用いることができる。整式の乗法の計算ができる。〔技〕〔知〕					
		式の展開は分配法則を用いれば必ずできることを理解している。〔考〕					
	3. 因数分解	展開の公式を利用することができる。〔知〕					
		対称式では輪環の順に文字式を整理することができる。〔技〕					
		式の特徴に着目して変形したり、式を1つの文字におき換えたりすることによって、式の計算を簡略化することができる。〔考〕〔技〕					
	<b>第2節 実数</b>						
	4. 実数	有理数と無理数の違い、および実数について理解している。〔知〕					
		循環小数を表す記号を用いて、分数を循環小数で表すことができる。〔技〕					
		循環小数を分数で表すことができる。〔技〕					
		自然数、整数、有理数、実数の各範囲で、四則計算について閉じているかどうかを考察できる。〔技〕					
		それぞれの数の範囲での四則演算の可能性について理解している。〔知〕					
	5. 根号を含む式の計算	四則計算を可能にするために数が拡張されてきたことを理解している。〔考〕					
		実数を数直線上の点の座標としてとらえることができる。また、実数の大小関係と数直線を関連付けて考えることができる。〔考〕					
		絶対値の意味と記号表示を理解している。〔知〕					
	6. 不等式の性質	平方根の意味・性質を理解している。〔知〕					
		平方根の性質、平方根の積、商などについて、一般化して考えられる。〔考〕					
		根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。また、分母の有理化ができる。〔知〕					
	7. 1次不等式	対称式の値を求めるのに、分母の有理化や、式の変形を利用することができる。〔考〕					
		不等号の意味を理解し、数量の大小関係を式で表すことができる。〔技〕					
		不等式の性質を理解している。〔知〕					
	8. 絶対値を含む方程式・不等式	不等式における解の意味を理解している。〔知〕					
		1次不等式を解くことができる。〔知〕					
		1次不等式の解を、数直線を用いて表示できる。〔技〕					
1. 集合	連立不等式の解を、数直線を用いて表示できる。〔技〕						
	連立不等式の意味を理解し、連立1次不等式を解くことができる。〔知〕						
	A<B<CをA<BかつB<Cと考えて連立不等式を解くことができる。〔技〕						
2. 命題と条件	不等式における解の意味を理解し、1次不等式の応用問題を解くことができる。〔知〕						
	身近な問題を1次不等式の問題に帰着させることができ、問題を解くことができる。〔考〕〔知〕						
	絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。〔技〕〔知〕						
<b>第2章 集合と命題</b>							
1. 集合	絶対値記号を含む式について、絶対値記号をはずす処理ができる。〔技〕						
	絶対値を含むやや複雑な方程式に取り組む意欲がある。〔関〕						
	条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。〔考〕						
2. 命題と条件	集合の特徴によって、要素を列挙する方法と要素の満たす条件を示す方法を使い分けて、集合を表すことができる。〔技〕						
	ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して処理することができる。〔技〕						
	2つの集合の関係を、記号を用いて表すことができる。〔技〕						
1. 集合	空集合、共通部分、和集合、補集合について理解している。〔知〕						
	ド・モルガンの法則を理解している。〔知〕						
	3つの集合についても、和集合、共通部分について考察しようとする。〔関〕						
2. 命題と条件	命題の真偽を、集合の包含関係に結びつけてとらえることができる。〔考〕						
	命題を表す記号を理解し、命題の真偽を考察することができる。〔技〕						
	命題の真偽、反例の意味を理解している。〔知〕						
1. 集合	命題が偽であることを示すには反例を1つあげればよいことが理解できている。〔考〕						
	条件と集合の関係を理解し、必要条件、十分条件を集合の関係でとらえることができる。〔考〕						
	必要条件、十分条件、必要十分条件、同値の定義や使い方を理解している。〔知〕						
2. 命題と条件	条件の否定を表す記号を理解している。〔知〕						
	条件の否定、ド・モルガンの法則を理解しており、条件の否定が求められる。〔知〕						

3. 命題と証明	命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解しており、それらの真偽を調べることができる。[知]
	対偶、背理法を用いた証明法について、興味・関心をもつ。[関]
	整数の性質を証明するのに、文字を適切に用いることができる。[技]
	対偶、背理法を理解し、命題を証明するのにこれらを適切に用いることができる。[考]
間接証明法を理解し、命題を証明することができる。[知]	
<b>第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ</b>	
1. 関数とグラフ	2つの数量の関係を表式で表現できる。[考]
	$y=f(x)$ や $f(a)$ の表記を理解しており、用いることができる。[技]
	関数、座標平面について理解している。[知]
2. 2次関数のグラフ	1次関数のグラフがかけて、値域、関数の最大値、最小値が求められる。[知]
	放物線 $y=ax^2$ の形や軸、頂点について理解している。[知]
	$y=ax^2+q$ 、 $y=a(x-p)^2$ などの表記について、グラフの平行移動とともに理解している。[技]
	$ax^2+bx+c$ を $a(x-p)^2+q$ の形に変形できる。[技]
	平方完成を利用して、2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。[技][知]
	放物線の平行移動を、頂点の移動に着目して、考察することができる。[考]
	グラフの平行移動が、x軸方向、y軸方向の用語を用いて表現できる。[技]
	一般の2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフについて、軸、頂点の式を考察しようとする。[関]
	グラフの平行移動の一般公式を積極的に利用しようとする。[関]
	グラフの平行移動の一般公式を活用して、平行移動後の放物線の方程式を求めることができる。[技]
<b>第2節 2次関数の値の変化</b>	
3. 2次関数の最大・最小	2次関数の値の変化がグラフから考察できる。[考]
	2次関数が最大値または最小値をもつことを理解している。[知]
	$y=a(x-p)^2+q$ の形に変形し、最大値、最小値を求めることができる。[技]
	2次関数の最大・最小問題を、図をかいて考察しようとする。[関]
	2次関数の定義域に制限がある場合に、最大値、最小値を求めることができる。[技]
4. 2次関数の決定	定義域が変化したり、グラフが動いたりするときの最大値や最小値について、考察することができる。[考]
	最大・最小の応用問題に2次関数を利用できる。また、最大・最小の応用問題において、計算を容易にするような変数設定ができる。[技][知]
	2次関数の決定条件に興味・関心をもつ。[関]
	与えられた条件を関数の式に表現できる。[技]
5. 2次方程式	2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を使うことができる。[考]
	与えられた条件から2次関数を決定することができる。[知]
	連立3元1次方程式の解き方を理解している。[知]
<b>第3節 2次方程式と2次不等式</b>	
6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係	連立3元1次方程式の解き方として、因数分解利用、解の公式利用を理解している。[知]
	2次方程式を解く一般的な方法として解の公式が利用できる。[考]
	1次の係数が $2b^2$ である2次方程式の解の公式を積極的に利用しようとする。[関]
	2次方程式の解の考察において、判別式
7. 2次不等式	$D=b^2-4ac$ の符号と実数解の関係を理解し、利用することができる。[技][知]
	2次方程式が実数解や重解をもつための条件を表式で示すことができる。[考]
	2次関数のグラフとx軸の共有点の座標が求められる。[知]
	2次関数のグラフとx軸の共有点の個数を求めることができる。[技]
	2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、 $D=b^2-4ac$ の符号から考察することができる。[考]
	1次関数のグラフと1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考えようとする。[関]
	2次不等式の解と2次関数の値の符号を相互に関連させて考察できる。[考]
	2次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。[関]
	2次不等式を解くことができる。[知]
	式を解きやすい形に変形してから、2次不等式を解くことができる。[技]
2次式が一定の符号をとるための条件を、グラフと関連させて理解している。[考]	
2次の連立不等式を解くことができる。[知]	
身近な問題を2次不等式の問題に帰着させることができ、問題を解くことができる。[考][知]	
2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。[知]	
絶対値を含む1次関数、2次関数について、そのグラフを考察しようとする。[関]	
<b>第4章 図形と計量 第1節 三角比</b>	
1. 三角比	直角三角形において、正弦・余弦・正接が求められる。[知]
	三角比の表から $\sin \theta$ 、 $\cos \theta$ 、 $\tan \theta$ の値を読み取ることができる。[考]
	直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、応用問題に利用できる。[知]
2. 三角比の相互関係	具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。[考]
	$\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$ を三平方の定理としてとらえることができる。[考]
	三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。[知]
3. 三角比の拡張	$\sin(90^\circ - \theta) = \cos \theta$ などの公式を利用することができる。[技]
	拡張された三角比を、座標平面に図示して考察することができる。[考]
	直角三角形の斜辺の長さを適当に変えて、三角比を考察することができる。[技]
	$\sin(180^\circ - \theta) = \sin \theta$ などの公式を利用することができる。[技]
	座標を用いた三角比の定義を理解し、三角比の値から $\theta$ を求めることができる。[知]
	正弦の値からは角は1つに定まるとは限らないことを理解している。[知]
$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の場合、1つの三角比の値から残りの値を求める問題では、三角比の符号に注意を払う必要があることを理解している。[知]	
三角比を用いて、直線とx軸とのなす角が求められる。[技]	
<b>第2節 三角形への応用</b>	
4. 正弦定理	三角形の外接円、円周角と中心角の関係などから、正弦定理を導こうとする。[関]
	三角形の外接円、円周角、辺の長さなどの関係を考察することができる。[考]
	正弦定理における $A=B=C=D$ の形の関係式を適切に処理できる。[技]

	正弦定理を利用して、三角形の外接円の半径、辺の長さや角の大きさが求められる。[知] 正弦定理を測量に応用できる。[考][知]
5. 余弦定理	三平方の定理をもとに、余弦定理を導こうとする。[関] 余弦定理を利用して、三角形の辺の長さ、角の大きさが求められる。[知] 余弦定理を測量に応用できる。[考][知] 余弦定理を用いて三角形の形状を考察することができる。[考]
6. 正弦定理と余弦定理の応用	余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。[技] 三角形の解法について興味を示し、 $\sin 75^\circ$ なども求めようとする。[関] 三角形において、正弦の値から角はただ1つに定まらないことを理解している。[知] 正弦定理を $a:b:c = \sin A:\sin B:\sin C$ として利用できる。[技]
7. 三角形の面積	三角比を用いた三角形の面積公式を理解している。[知] 3辺が与えられた三角形の面積を求めることができる。[知] 円に内接する四角形を2つの三角形に分割して、その面積を求めることができる。[技] 三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。[関] 3辺が与えられた三角形の内接円の半径を求めることができる。[技]
8. 空間図形への応用	正弦定理、余弦定理を空間図形の計量に応用できる。[考][知] 測量や空間図形への応用では、適当な三角形に着目して考察できる。[技] 三角比を利用して、正四面体などの体積を求めることができる。[技]
<b>第5章 データの分析</b>	
1. データの整理	度数分布表、ヒストグラムについて、理解している。[知] データを度数分布表に整理することができる。[技] 度数分布表からヒストグラムを作ることができる。[技]
2. データの代表値	身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。[関] 平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。[知][技] データの分布の仕方によっては、代表値として平均値を用いることが必ずしも適切でないことを理解している。[考]
3. データの散らばりと四分位数	範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較することができる。[知][技][考] 四分位数の定義を理解し、それを求めることができる。[知][技] 四分位範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較することができる。[知][技][考] 範囲の欠点と、四分位範囲のよさを理解している。[考] 箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。[技][考] ヒストグラムと箱ひげ図の関係について理解している。[知]
4. 分散と標準偏差	偏差の定義とその意味を理解している。[知] 分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。[知][技] 変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するか、考察しようとする。[関]
5. データの相関	散布図を作成し、2つの変量の間の相関を考察することができる。[技][考]
<b>数学Ⅱ 第1章 式と証明 第1節 式と計算</b>	
1. 3次式の展開と因数分解	3次式の展開の公式を利用することができる。[知] 3次式の因数分解の公式を利用することができる。[知] 因数分解の一意性に興味をもち、検算などに利用しようとする態度がある。[関]
2. 二項定理	二項定理をパスカルの三角形と結びつけて考えることができる。[見] 二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。[知] パスカルの三角形の性質、二項定理を理解し、活用できる。[知] 二項定理を等式の証明に活用できる。[技] 二項定理を3項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。[知]
3. 整式の割り算	整式の割り算の計算方法を理解している。[知] 整式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。[見] 割り算で成り立つ等式を理解し、利用することができる。[技][知] 2種類の文字を含む整式の割り算に興味を示し、具体的な問題に取り組もうとする。[関] 2種類以上の文字を含む整式の割り算を、1つの文字に着目することで、1文字の場合と同様に考えることができる。[見]
4. 分数式とその計算	分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。[見] 分数式の約分、四則計算ができる。[知] 分数式の計算の結果を、それ以上約分できない分数式にして表すことができる。[技] 繁分数式を分数式の性質を用いて処理することに意欲を示す。[関] 繁分数式を簡単にすることができる。[知]
5. 恒等式	恒等式と方程式の違いを理解している。[知] 恒等式における文字の役割の違いを認識できる。[見] 恒等式となるように、係数を決定することができる。[知] 分数式の恒等式の分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。[技] 恒等式の係数を決定する際に、係数比較法と数値代入法とを、比較して考察しようとする。[関]
<b>第2節 等式・不等式の証明</b>	
6. 等式の証明	恒等式 $A=B$ の証明を、適切な方法で行うことができる。[技][知] $A=B$ と $A-B=0$ が同値であることを利用して、等式を証明することができる。[見] 与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。[見][知] 比例式を $=k$ とにおいて処理することができる。[技] 比例式を含む等式の証明を通じて、加比の理に興味をもち、考察しようとする。[関]
7. 不等式の証明	実数の大小関係の基本性質に基づいて、自明な不等式を証明することができる。[技] 不等式の証明で、等号の成り立つ場合について考察できる。[技] 実数の性質を利用して、不等式を証明することができる。[知] 同値な不等式を証明することで、もとの不等式を証明することができる。[見] 平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。[知] 絶対値の性質を利用して、絶対値を含む不等式を証明することができる。[知] 不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心をもち、それを利用しようとする。[関] 相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。[知]